

清水会長無事帰国の報告を肴にささやかな宴が持たれ、採集品の整理が夜遅くまで行われた。

9月7日(第2日め)今回の目的地米子不動尊(奥院)往復に朝早くから期待がかけられた。幸、天気にも恵まれ、三台の車とバイクに分乗して車道の終点ろう石鉱山跡まで、そこから、米子川の狭い谷底沿いの歩道は、植物も豊富で格好な採集地であった。出現した主な植物を列記すると、ヒメゴヨウイチゴ、ミヤマシダ、キョウタキシダ、ブナ、マルバマンサク、アサマヒゴダイ、ハルユキノシタ、フサザクラ、カントウマユミ、タマアジサイ、シウリザクラ、コタニワタリ、トチノキ、ウダイカンバ、イタヤカエデ、オオカニコウモリ、コウモリソウ、ウスゲタマブキ、レンゲショウマ、トチバニンジン、サラシナショウマ、ニシキウツギ、オガラバナ、ダケカンバ、サワダツ、ヤグルマソウ、スミレサイレン、ノリウツギ、オヒョウニレ、ホソイノデ、オクモミジハグマ、ヤシヤブレ、サワシバ、オノオレ、ミヤマスマレ、アイズシモツケ、オククルマムグラ、ミヤマニガウリ、クマシダ、ジウモンシダ、カメバヒキオコシ、ミヤマハタザオ、クロクモソウ、コシジシモツケ、オオメシダ、ミヤマツチトリモチ、ザリコミ、チドリノキ、オオバイラクサ、ミヤマアキノノゲシ、ツルネコノメソウ、センジュガンピ、ミヤマベニシダ、スズタケ、ミヤマアオダモ、ツノハジバミ、サラサドウダン、ハウチワカエデ等々であった。海拔1,100m~1,500mにまたがるこの地域は、夏緑広葉樹林(ブナ)帯にあたり、土壌の貧弱な尾根筋には、ツガが望見される。ブナは単木で見られるが、かつて林として存在したかは定かではない。ただ、米子不動尊の一つに数えられるという程であるから、古くから信者の往来があったことは確かで、このような奥地にまで薪炭材を求める手が伸びていたことは、炭焼きのかま跡からもうかがえる。更に、奥院の対岸では、硫黄の採掘がかなり大がかりに行われていたので、これらの影響を受けてきたことも事実であろう。米子川に落ちこむ両壁は急峻で、四阿火山群のカルデラ地形であるという。奥院の左右には、不動滝と権現滝が40~50mの急崖から落下し、水煙の中をとび交うイワツバメの異様な鳴き声は、いっそう聖域を感じさせる。

帰路は、赤茶けた硫黄鉱山跡の裸地から、奇妙山の山腹をまいて起点へたどり着いた。植生学的にも興味のある自然が随所に広がっている地域の一つであった。

尚、奥原氏からは、レンゲショウマの今のところこの山列での北限であるというお話があった。また、丸山利雄氏の紹介によって、ミヤマツチトリモチの新産地として報告された(ヤッコソウ、ツチトリモチの友、1976, Vol. 4, No. 4 東京)。

---

〔植物ニュース〕 10. ケショウヤナギ *Chosenia arbutifolia* (Pall.) A. Skvortz. 今年の3月下旬、松本市郊外梓川沿いでヤナギ類の若枝を採取、ピーカーにさしておいたところ、ネコヤナギ、カワヤナギ、オノエヤナギ、イヌコリヤナギなどのヤナギ属植物はいずれも2週間ないし3週間後に不定根を発生するが、ケショウヤナギでは不定根の発生はみられないことが分った。ケショウヤナギはさし木による繁殖は困難であるとされている。(清水建美)